

職場でALTに理解が求められる日本語の語句

—教育委員会と学校を対象にしたニーズ調査より—

佐藤 雅彦

This article looks at minimum vocabularies needed in Japanese work environment for ALTs. The words collected from supervisors of ALTs at boards of education and schools suggest that certain words are needed to be introduced to their ALTs and that those words can be divided into several categories. And the collected are recognized by the supervisors as minimum requirement at work for comprehension.

The vocabularies in this article will be helpful for Japanese teachers when teaching, and for supervisors/colleagues of ALTs to show ALTs a guideline of minimum Japanese words for work.

Keywords:

Japanese-Language Pedagogy, Needs Survey, Assistant Language Teacher (ALT), Vocabulary, Japanese for Specific Purposes (JSP)

【キーワード】

日本語教育, ニーズ調査, ALT (外国語指導助手), 語句・語彙, 専門日本語教育

1 はじめに

筆者は、ALT⁽¹⁾を対象とした日本語の短期集中指導を過去10年間にわたり行っている。そこで感じるのは、職場である教育委員会や学校⁽²⁾がALTに理解してほしい基本的な職場の語句をまとめる必要性である。日本語によるコミュニケーションへの不安や不満が、担当者とALTの双方（特に教育委員会と新人ALT）から聞かれる⁽³⁾からである。基本語句のリストがあれば、職場で求められる日本語をALTに指導する際のリソースとして活用でき、不安軽減の助けになるものと期待できる。

JETプログラム参加者の日本語ニーズに関する先行研究には、前田他（1999）などがあるが、これはJETプログラム参加者、つまり学習者を調査対象としたものであり、受け入れ側のニーズを調査したものではない。札野・辻村（2006）は、大学生に期待される日本語コミュニケーション能力に関し、その受け入れ側である大学の教員を対象として詳細な調査を行っている。これはALTに関するものではないが、その調査対象を受け入れ先としている点で、本研究と共通するものがある。このように、ニーズについての研究はあるものの、ALTの受け入れ側を対象にした研究は現在までほとんど見当たらない。

本研究では、これまでのニーズ調査で得た語句のリストが、ALTに職場で最低限理解してほしい語句として担当者から支持されるか調査し、その妥当性を考える。

2 方法

研究は、ニーズ調査で得た語句（データ1）を整理し、それらに関する質問紙およびインタビュー調査（データ2）を行う形で進めた。

データ1は、筆者が代表を務めるJET青年向け日本語集中講座でALT担当者を対象に実施した2002～2011年のニーズ調査(有効回答総数110)により得られたものである。ただし、2004年のデータは紛失したため、この中に含まれていない。ニーズ調査は、質問紙への自由記述を主な形式として行った。主な質問内容は、最低限理解しておいてほしい語句・マナーのほか、講座参加者（JET青年）と担当者が話す時間帯、話すための時間の有無、多く話す話題・内容、どんなときに言葉の障壁を感じるかなどである。この中で利用したのは、担当者がALTに最低限理解しておいてほしい語句に関する回答（自由記述）である。

データ2は、データ1の結果に関する質問紙調査（当てはまる選択肢を選ぶ形が主）とその回答確認や詳細を尋ねるためのインタビューで得た。対象者はこれまで所属するALTが夏期日本語集中講座に参加したことのある教育委員会および学校の現ALT担当者である⁽⁵⁾。

3 データ1 ニーズ調査にみる最低限理解してほしい職場の語句とその分類

以下ではデータ1を用い、最低限理解してほしい語句について考える。

3.1 教育委員会の語句

以下に、教育委員会に対するニーズ調査で複数回挙げられた語句を、多いものから示す。

表1 ニーズ調査で複数回挙げられた教委の語句

9年分 教委 語句			
		教育長	2
年休	22	※勤務先の状況	2
あいさつ（具体例なし）	12	勤務時間	2
保険	6	出張	2
代休	4	職専免	2
年次	4	病休	2
契約	4	振替休日	2
校長先生	3	週休の振替	2
教頭先生	3	ご苦勞様でした	2
税金	2	お先に失礼します	2
飲み会	2	～から～のあいだ・まで（時間）	2

「年休」、「あいさつ」を最低限理解してほしいとする教育委員会が非常に多いことがわかる。それらのあとに続くものとして「代休」、「年次」が見られるため、休みに関係のある語句の理解が重要視されているものと言える。同様のことは、表に見られる「ご苦勞様でした」などのほかにも具体例⁽⁶⁾が挙げられていることから、「あいさつ」に関しても言える。以上から、「年休」と「あいさつ」は必ず指導されるべきものと言える。

次に、一度だけ挙げられた語句を含めた上でグループに分けて考える。

表2 教委から出された語句すべて

9年分 教委 語句グループ別					
ALTの事務・説明で使うことば	46	口座振替	1	学校と関係のあることば	14
保険	6	出勤簿	1	校長先生	3
契約	4	教育指導課	1	教頭先生	3
出張	2	公務	1	小中の(年, 月, 週)行事名	1
職専免	2	勤務中	1	学校行事	1
勤務時間	2	税	1	集会	1
税金	2			○時間目	1
教育長	2	年次休暇・休みのことば	40	始業時間	1
役場	1	年休	22	終業時間	1
公民館	1	年次	4	休み時間	1
服務免除	1	代休	4	予鈴・チャイム	1
職務のこと	1	病休	2		
打ち合わせ	1	週休の振替	2	その他	16
回覧	1	振替休日	2	勤務先の状況	2
決裁	1	年次休暇	1	飲み会	2
部長	1	年次休日	1	～から～の間・まで(時間)	2
次長	1	有休	1	～までに	1
課長	1	休み	1	自己紹介	1
参事	1			必要・義務を尋ねる表現	1
補佐	1	あいさつ表現	20	体調が悪いときに言う言葉	1
評価	1	あいさつ(具体例なし)	12	朝会	1
勤務条件等に関する語句	1	お先に失礼します	2	飲み会への参加	1
給料(日)	1	ご苦勞様でした	2	忘年会	1
大家さん	1	失礼します	1	送別会	1
家賃	1	失礼しました	1	5分前行動	1
連絡	1	おはようございます	1	自腹	1
教育委員会	1	お疲れさまです	1		
給料等の振込	1				

語句はその類義性、それらが使われると思われる状況・文脈から、大きく5つに分けることができる。「ALTの事務・説明で使うことば」、「年次休暇・休みのことば」、「学校と関係のあることば」、「あいさつ表現」、「その他」である。いずれのグループにも、複数回挙げられた語句が含まれていることは、各グループ分けの意義を示していると言えよう。この分類からは、ALTに関わる事務処理の際に教委が説明や確認のため用いると思われる語句を理解することが、まず求められていることがうかがえる。つまり、職場で必要な語句とはいえ、ALTが教員としての第一義的な仕事、つまり教える場面で用いる語句ではないことがわかる。この結果は、教委のALTとの関わりが、同僚というよりも世話役のような立場からによるものであることを示唆していると考えられる。

その語句グループは、「ALTの事務・説明…」と「年次休暇・休み…」が圧倒的に大きいウエイトを占めている。その二つに続くのが「あいさつ表現」、「学校と関係のあることば」である。これは、理解が特に望まれる語句は、一度だけ挙げられた語句を含めた上でグループの視点から見ると、複数挙げられた語句(表1)が示唆するもの以外にも考えられることを意味している。これらを総合すると、教委において理解が求められる語句は、特に事

務・説明、年次休暇・休み、そしてあいさつに関連したものであると思われる。

「ALTの事務・説明…」は、「年次休暇・休み…」、「あいさつ表現」とは異なり、一部を除きそのほとんどが一度だけ挙げられた語句で構成されている。このことは指導の際、職場の実情に合わせた取捨選択が必要であることを意味している。同じくそのほとんどが一度だけ挙げられた語句というのが、「学校と関係のあることば」である。ここではその中に校長・教頭先生、そして語形には違いがあるものの、学校行事が複数見られることを心に留めておきたい。また、「その他」では、飲み会およびその類いの名称が、飲み会への参加を含めて5つ、時間に関することばが4つ挙げられているのが目につく。

3.2 学校の語句

学校に対するニーズ調査で複数回挙げられた語句をまとめると、以下のようになる。

表3 ニーズ調査で複数回挙げられた学校の語句

9年分 学校 語句			
年次	15	ごちそうさまでした	2
あいさつ（具体例なし）	7	ありがとうございます	2
年休	6	よろしく申し上げます	2
お先に失礼します	5	職員会議	2
短縮授業	5	集会	2
おはようございます	4	出張伺い	2
お疲れさまでした	4	職免	2
代休	4	事務室	2
会議	4	時間割変更	2
職朝（うち一つは職員朝会）	4	授業変更	2
出張	3	○時間目	2
いただきます	2	補習	2
		病休	2

教育委員会の「年休」と同義語である「年次」がここでも群を抜いて多く挙げられている。それに続くのが「あいさつ」である点も同じである。その後にあるのが「年休」、「代休」、あいさつの具体例であり、休みとあいさつの重視を支持していることも同じである。教育委員会と異なるのは、それらの語句の間に「短縮授業」、「会議」、「職朝」が見られることである。これらは教員としての仕事により密接につながっている語句もある程度重視されていることを示すものと思われる。以上から、指導に欠かせない語句は、「年次・年休」、「あいさつ」、「短縮授業」、「会議」といったものだと言えよう。

次に、教育委員会の場合と同様に、一度だけ挙げられたものを含む語句全体を、その類義性、それらが使われると思われる状況・文脈から、グループに分けて考える。

表4 学校から出された語句すべて

9年分 学校 語句グループ別					
あいさつ表現	32	学校の提出書類に使う表現	1	授業・指導のためのことば	13
あいさつ（具体例なし）	7	出勤簿	1	補習	2
お先に失礼します	5	出張旅費	1	宿題	1
お疲れさまでした	4	旅費	1	言語活動	1
おはようございます	4	管理職	1	週案	1
よろしくお願いします	2	分掌名	1	打ち合わせ	1
ありがとうございます	2	学校の組織体系	1	朝学習	1
いただきます	2			進学指導	1
ごちそうさまでした	2	一般的な学校行事名	18	大学受験	1
すみません	1	会議	4	模試	1
すみませんでした	1	職朝	3	面接指導	1
失礼します	1	集会	2	自習	1
お疲れさまです	1	職員会議	2	日課	1
		始業式	1		
年次休暇・休みのことば	30	新任式	1	その他	15
年次	15	行事	1	休憩室	1
年休	6	職員朝会	1	実業高校の用語	1
代休	4	全校集会	1	遅刻	1
病休	2	親睦会	1	休む	1
振替休業日	1	学校行事	1	生徒	1
週休	1			教師	1
振替	1	授業予定・授業変更	17	先生	1
		短縮授業	5	複数ある勤務校の名前（漢字）	1
学校の事務のことば	20	授業変更	2	体調を表すことば	1
出張	3	時間割変更	2	〇年生	1
事務室	2	〇時間目	2	体育館	1
出張伺い	2	短縮時間割	1	外出	1
職免	2	臨時時間割	1	中高一貫校	1
校長先生	1	特別時間割	1	朝の打ち合わせの話題	1
教頭先生	1	代替授業	1	意志を表す表現	1
担任	1	短縮	1		
勤務時間	1	校時変更	1		

学校から出されたこれらの語句は、「あいさつ表現」、「年次休暇・休みのことば」、「学校の事務のことば」、「一般的な学校行事名」、「授業予定・授業変更」、「授業・指導のためのことば」、「その他」の7グループに分類することができる。その他を除くいずれのグループにも、複数回挙げられた語句が含まれていることは、各グループ分けの意義を示していると言えよう。これらのグループは、同僚との良好な関係構築のためのことばのほか、授業予定や変更、学校行事、事務などの用語、つまりその学校の教員として働く上で必要なことばの理解が求められていることを示している。これは教員としてのALTに期待する姿勢を示唆している。また、ひとくくりに職場とは言っても、教育委員会と共通するもの（あいさつ表現、年次休暇・休み）、それぞれに特有のもの（ALTの事務・説明、授業予定や学校の事務など）のあることも分かる。そして、「学校の事務…」、「一般的な学校行事名」、「授業予定・変更」、「授業・指導…」の各グループが大体同じだけ集まっていることは、それ

らがいずれも等しく必要であることを意味していると思われる。さらに、「あいさつ表現」と「年次休暇・休みのことば」が全体の4割以上であること、「学校の事務…」、「一般的な学校行事名」、「授業予定…」、「授業・指導…」の合計が前者2つの合計を上回ることから、重点はあいさつと年次休暇にあるものの、学校独自の語句グループ群も現場の日本語には欠かせない要素であることがうかがえる。

そのグループの中で「授業・指導のためのことば」だけは、そのほぼすべてが一度だけ挙げられた語句で構成されている。このことは、教委のところでも述べたように、指導に当たって、職場の実情に合わせた語句の取捨選択が検討されるべきグループであることを意味していると思われる。また、その他の中には、実業高校の用語、中高一貫校という、勤務校の特色に関連したものが見られる。これは指導の際、勤務校がどのような特徴を持っているところか調べておくことの必要性を示唆している。

以上より、学校から出された語句の多くは、教員つまり同僚として働く上で必要なものだととらえることができる。

最後に教育委員会のみに見られるグループ「学校と関係のあることば」についてふれた。そこに含まれる語句は、学校の授業予定や行事と関わるものである。グループ名は、教委で学校について話すときに出る語句だと思われることを反映している。これらの語句は教育委員会特有のものではないが、学校ではそれぞれ別のグループに分類される語句が一つにまとめられたものであるため、教委特有の語句グループとして扱う。このことから、以後、教委・学校間の語句の共通性・独自性を考えるときは、主にグループの視点から見るとする。

4 データ2 集められた語句の妥当性

以下では、集められた語句に関する質問への回答（データ2）が示唆することを考える。

4.1 リストの語句は最低限理解が必要なものと言えるか

ALT担当者に対し、これまでに集められた語句をまとめた表⁽⁷⁾を示して以下のような質問をしたところ、以下のような結果が得られた。

質問 表は、あなたが担当者としてALTに理解してほしい最低限の語句の大枠をカバーしていると思いますか。

表5 集められた語句は最低限の勤務先の語句の大枠か

教育委員会	学校
思う6 思わない0	思う4 思わない0

この結果は、これまでのニーズ調査で集められた語句が日本語指導に際してのデータとして有効であることを示唆している。ただし、ここまで知る必要はないのではないかとこの意見が、ある教育委員会から出ていたので、そのことも記憶にとどめておきたい。

4.2 語句は上位に挙げられたものを指導するだけでよいか

以下（表6,7）は、勤務先でリストの語句がどのような状況で出現する、つまり使われ

るかに関する質問紙調査の結果である。表中の語句は、グループ名や挙げられた数などは示さず、大きいグループ順（グループ内の語句も多い順）に並べてある。ただし、同義・類義と見なせる一部の語句（アスタリスク（*）のついたもの）は、同じ欄にまとめて提示した。そのため、アスタリスクのついた欄の数値は、同じ欄の語句が得た数値の合計である。

出現する状況は、グループ分けのときに想定された、語句が使われる状況・文脈を言語化したものなどを選択肢⁽⁸⁾として提示した。表中の「…選択された各種状況の数」は、各語句に関してそれが出現する状況（選択肢）が何種類選ばれたかを示し、「…各種状況を選択した人の数」は、それらの状況を選んだ人数（延べ数）を示す。

表6 教育委員会の語句の結果

	ニーズ調査での出現数	この語句が出現するとして 選択された各種状況の数	この語句の各種状況を 選択した人の数		ニーズ調査での出現数	この語句が出現するとして 選択された各種状況の数	この語句の各種状況を 選択した人の数
保険	6	2	7	勤務中	1	4	7
契約	4	3	10	年休, 年次, 年次休暇 年次休日, 有休*	29	5	12
出張	2	3	6	代休	4	4	8
職専免, 服務免除*	3	4	6	病休	2	4	8
勤務時間	2	7	16	振替休日	2	6	12
税金, 税*	3	2	6	週休の振替	2	4	6
教育長	2	2	7	休み	1	5	9
役場	1	1	2	挨拶(お先に失礼します等)*	20	4	9
公民館	1	0	0	校長先生, 教頭先生*	6	6	14
職務のこと	1	5	10	小中の(年, 月, 週の)行事名	1	4	10
打ち合わせ	1	5	8	集会	1	3	5
回覧	1	0	0	○時間目	1	4	9
決裁	1	0	0	始業時間・終業時間*	2	4	10
部長, 次長, 課長, 参事補佐*	5	3	6	休み時間	1	4	6
評価	1	3	7	予鈴・チャイム	1	1	1
勤務条件等に関する語句	1	4	7	勤務先の状況	2	6	13
給料(日)	1	1	5	飲み会	2	6	11
大家さん	1	2	5	～から～のあいだ まで(時間), ～までに*	2	4	8
家賃	1	2	6	自己紹介	1	5	11
連絡	1	4	7	必要・義務を尋ねる表現	1	3	4
教育委員会	1	4	7	体調が悪いときに言うことば	1	5	7
給料等の振込	1	1	5	朝会	1	2	2
口座振替	1	1	5	忘年会, 送別会*	2	4	7
出勤簿	1	2	5	5分前行動	1	1	1
教育指導課	1	2	5	自腹	1	2	2
公務	1	4	6				

表7 学校の語句の結果

	ニーズ調査での出現数	この語句が出現するとして 選択された各種状況の数	この語句の各種状況を 選択した人の数		ニーズ調査での出現数	この語句が出現するとして 選択された各種状況の数	この語句の各種状況を 選択した人の数
挨拶（お先に失礼します お疲れ様です等）*	32	2	5	授業変更，時間割変更， 校時変更*	5	4	8
年次，年休*	21	4	9	○時間目	2	3	6
代休	4	5	8	臨時時間割，特別時間割*	2	4	8
病休	2	4	7	代替授業	1	4	5
振替休業日，振替*	2	5	8	補習	2	3	4
週休	1	4	4	宿題	1	3	5
出張	3	3	5	言語活動	1	2	4
事務室	2	1	1	週案	1	5	7
出張伺い	2	1	1	打ち合わせ	1	5	9
職免	2	3	3	朝学習	1	2	2
校長先生，教頭先生*	2	4	8	進学指導	1	2	2
担任	1	5	9	大学受験	1	1	1
勤務時間	1	4	9	模試	1	3	3
学校の提出書類に使う表現	1	1	1	面接指導	1	1	3
出勤簿	1	2	2	自習	1	3	5
出張旅費	1	1	1	日課	1	3	6
旅費	1	2	2	休憩室，体育館*	2	3	4
管理職	1	1	1	実業高校の用語	1	0	0
分掌名	1	1	1	遅刻	1	2	3
学校の組織体系	1	1	1	休む	1	3	5
会議	4	3	5	生徒，○年生*	2	4	9
職朝，職員朝会*	4	3	5	先生，教師*	2	5	14
集会，全校集会*	3	3	7	複数ある勤務校の名前（漢字）	1	5	9
職員会議	2	3	6	体調を表すことば	1	4	8
始業式	1	3	7	外出	1	2	3
新任式	1	3	7	中高一貫校	1	1	1
行事，学校行事*	2	4	8	朝の打ち合わせの話題	1	4	8
親睦会	1	4	5	意志を表す表現	1	4	6
短縮授業，短縮時間割，短縮*	7	4	7				

教育委員会も学校も，ニーズ調査における語句の出現数と，語句が出現するとされる状況数や選択した人の数との間には関連が見られない。そのため，ニーズ調査の上位語句のほか，下位のものもALTとその勤務先の状況⁹⁾に応じて指導項目に加えるべきかどうか判断することが求められると思われる。また，指導の際にはすべてを暗記させるのではなく，語句リストをリソースとして提供することや，辞書の引き方を紹介することなどが個々の実情にあったものになると思われることも示唆している。

以上より，リストの語句は，教育委員会と学校が実際に理解してほしいとしているものであり，ニーズ調査で挙げられた数が少ないものも，使われうる状況の数などからその必

要・有用性が認められる。そのため、各現場で理解が求められる最低限の語句をALTに指導する際や、会話教材を作成する際などに有効活用できるリソースであると言える。

4.3 日本語指導者に覚えておいてほしいその他の語句とイメージ例

最後に、指導の際に役立つと思われる追加語句を示す。これらは教委と学校からは語句として挙げられたものの、語群名を意味するように思われる以下の5つの語句を見聞きしたとき、担当者が何を連想するかインタビューした結果である。そのため、語句から得られる連想すべてをカバーしたものではないが、イメージをつかむ上での参考にはなる。

表8 語群名を表すと思われる語句から導かれた語句の具体例

語群名と思われる語句	その語句を見聞きしたときに連想される具体的な語句
職務（教委のリストの語句）	勤務時間，教材研究，授業，指導全般
勤務条件（教委）	年休，給料，特別休暇（忌引，結婚など）
小中の行事名 ¹¹ （教委）	学校祭，合唱コンクール，PTA，入学式，卒業式，体験入学，修学旅行，春季大会，秋季大会，運動会
分掌名（学校）	放課後，生徒指導，教務，学年，特活，部活動
日課（学校）	○校時，ショートホームルーム，短縮授業

ここに挙げられた具体例のほとんどがこれまで見られなかったものであるのは、もともとの語句がいずれも1度しか出てこなかったものであるためと考えられる。ただし、その多くが日常的なものであるため、参考までに掲げておく。

5 結論と課題

以上より、ニーズ調査で得られた語句は、教育委員会および学校の担当者がALTに理解を求めている最低限の語句だと言えることが確認できた。この語句のリストが、日本語教室や職場でALTに対する日本語指導を行う際に活用されることを願いたい。

なお、これはあくまでも1つの県を対象にして行った調査研究であり、結果が地域的なものかどうかについては不明である。この点に関しての研究は次の機会を待ちたい。

引用・参考文献

- 有馬淳一，島田徳子（2002）「意味のある学習環境の設計を目指したコースデザイン－2000年度埼玉県JET青年日本語研修での実践－」『日本語国際センター紀要 第12号』87-104国際交流基金日本語国際センター
- （財）自治体国際化協会（2011）『JETプログラム日本語講座コースガイドブック平成23年度』
- （財）自治体国際化協会（2011）「JETプログラム」（2011年12月現在）<http://www.clair.or.jp/j/jetprogram/index.html>
- （財）自治体国際化協会業務部（2010）「新規来日JET参加者へのアドバイス」『自治体国際化フォーラム Oct. 2010』37-39自治体国際化協会
- 札野寛子，辻村まち子（2006）「大学生に期待される日本語コミュニケーション能力に関する調査について」『日本語教育の新たな文脈－学習環境，接触場面，コミュニケー

シヨンの多様性-』国立国語研究所編221-257アルク

前田綱紀, 下山雅也, 伊島順子, 木谷直之, 根津誠 (1999) 「JET青年の日本語ニーズ-
「JET青年の日本語使用実態調査」より-」『日本語国際センター紀要 第9号』国際交
流基金日本語国際センター (2011年12月現在) [http://www.jpfi.go.jp/j/urawa/public/
kiyou/ky09_09.html#no8_4](http://www.jpfi.go.jp/j/urawa/public/kiyou/ky09_09.html#no8_4)

The JET Programme Official Homepage of The Japan Exchange and Teaching Programme
「参加人数の詳細」(2011年12月現在) [http://www.jetprogramme.org/documents/stats/
2011-2012/2011_JET_Stats_J.pdf](http://www.jetprogramme.org/documents/stats/2011-2012/2011_JET_Stats_J.pdf)

謝辞

この研究は、教育委員会と学校のALTご担当の方々のご協力なしには行うことができなかった。ご多忙な中、アンケートのみならずインタビューにまでご協力くださった皆様に、この場を借りて心より感謝申し上げたい。

注

- (1) 総務・外務・文科省および(財)自治体国際化協会による、外国語指導や国際交流を目的としたJETプログラム参加者の中で、秋田県の中学・高校に外国語指導助手として勤務する人
- (2) 学校に関し、職場は職員室を指すものとする。これは、生徒と接する教室や廊下などでは基本的に英語を話すことが期待されるためである。
- (3) ニーズ調査用紙に以下のようなものが見られる(英語の回答はALTによるもの)。

自分達が英語で話せないことを痛感します。日本語を話せるようになってほしいと思っておりますが、日本語を聞き取れるようにもなってほしいです。／私達もできるだけ英語と日本語をおりませめて説明していますが、伝わっているのかいないのか、よくわかりません。／常に(接していて言葉の障壁を感じる)。／担当者であるが、英会話ができず、片言の英単語をつなげながらどうにか伝えている状態で、常に障壁を感じているのが現状である。／(ALTが)病気になった時(言葉の障壁を感じる)。

Q. どのようなときにコミュニケーションに困難を覚えますか All the time. When a conversation progresses beyond hello, my name is... / Always. I have no Japanese. / At the bank, at school. / All the time. I don't understand the language very well, and no one speaks English in my town. / Everywhere!

Q. 安心するため、職場でどのような情報を得たいと思いますか The schedule, if there are any important events or meetings happening. / Understanding what is happening. など。

- (4) 秋田県におけるJET参加者のための日本語夏期集中講座。現在までに256名参加。4日間で約21時間指導。
- (5) 教委6名, 中学校3名, 高校1名の計10名, 2011年10月23日現在。
- (6) 一度だけ挙げられたものについては, 表2を参照されたい。
- (7) 表2, 4のように, 挙げられた数の多い順にすべての語句が並べられた表。グループ名,

その語句が挙げられた数などは示していない。同義語については、スペースの関係から、同じ一つの欄に入れて同一選択対象とした。

- (8) 選択肢：ALT関連の事務説明や確認をするとき、仕事の予定を説明・確認するとき、授業・仕事の話し合い・準備をするとき、ALTとしての仕事について話すとき、学校行事などについて話すとき、職場でいい人間関係を築くとき、ALTの様子を知りたいとき、休み・休暇に関連することを話すときなど。
- (9) 具体的には、担当者が英語を話すか、ALTがどの程度日本語を話すか、ALTが担当者以外の人とどのようなコミュニケーションを勤務先で取っているかなどが考えられる。
- (10) このほかにも語群名を意味していると思われた語句はあったが、それらからは具体的な語句ではなく、状況説明などが導かれたため、ここでは扱わない。また、「あいさつ（具体例なし）」は、別個に挙げられた具体例がすでに多数示されているため、あえて取り上げなかった。
- (11) すべてに当てはまるわけではないが、休日出勤が求められる行事という説明が聞かれた。